

430MHz、運用について、最終章

SSBモードの話の前に、無線機だけの通信ではないデータ通信のお話をしておきます。先回の色々の運用モードの中にVoipなるデータ通信が有りましたが、データ通信と言っても様々なものが有りましてVoipの場合は、パソコンの通信回線を介した通信方法で、RF-link局が有ればその間は光通信回線を使っての通信と成り、日本国内は勿論海外との交信も車に取り付けた無線機やハンディー機でも可能です。又同様にハンディー機を使ってのワイヤーズと言う通信も有り、他にもJT-65やFT8等も同じようなものです。パソコンに専用のソフトを利用して通信を行います。同じアマチュア無線の交信とは言え、それぞれの考え方ですが、やはり、アナログでのダイレクト、いわば、シンプレックスの方が、つながった、と言う意味からの醍醐味とは違って来ます。筆者も何から何までやっている訳では有りませんので、他の通信方法は詳しく有りませんので、省略します。では、SSBの話に移りましょう、パソコンが無くても無線機とアンテナさえ有れば、出来る通信ですので、愛好者は多数います。多数居るので、相手が聞いてさえ居れば交信出来ます。土曜、日曜の休日は、どこかで交信をして居ます、夜とも成れば毎夜、何処かのエリアでロールコールや定期スケジュールが開催されて居ますので、聞いて見ましょう。それぞれ、エリアによってやり方は違うようですが、一般的な交信とはな何ら変わりは有りません。只聞いて居ると参加局の1局1局のSSBの周波数がバラバラで聞き辛い事が有ります。スケジュールには大抵そのエリアそれぞれに、MC局が居ます。MC局(センター局とも言います)とは、その周波数で会話をしている各局の整理をする局ですアマチュア無線はマイクを握って居る局だけが話す事が出来ます。一度に数人が話すとコンガラガッてしまいます。そのような事が起こらない様参加者を整理する役目です。先程の各局の周波数がズレて居る場合も、センター局は、* * 局さん、周波数を@@Hz上げて下さいとか、下げて下さいとかも、伝えて参加各局の話が全局に見える様にするのもセンター局の役目と言えるでしょう。皆さんが参加されてる仲間に加えて貰う時に、センター局向けで、ブレイクを掛けますが、その時、センター局は周波数が一致するようにブレイク局とのやりとりもします。ブレイク局はセンター局に周波数を合わせて声を出すのがマナーです。聞いて居る側から周波数を合わせる場合、FMの変調とは少し変わって来ます。FMで聞いて居る変調に近い周波数より、少し上に合わせ、声が少し籠もって居る様に聞こえる所の周波数です。周波数を合わせる場合はリット、又はクラリファイアは切って、VFOだけで併せ、聞き辛い様で有れば、リット又はクラリファイアで、少し周波数を下げれば聞きやすく成ります。定期的なスケジュールでは周波数が公開されて居ますので、仲間に加わった時、自局の無線機の周波数表示と各局との周波数のズレが有るかも知れませんが、どの程度ズレて居るのか記憶して於きましょう。CQを掛ける場合、ズレて居た分だけずらせて声を出せば良い事に成ります。応答が有って、相手局がズレた周波数で声が掛かっても、周波数を追う当局に併せるのは、良く有りません。次々とブレイクが有って仲間が増えて来た場合、先程のセンター局の立場に成る訳ですから、自局の周波数に併せて貰うようにしましょう。その為には時々周波数がズレて居無いか、周波数カウンターで点検も必要です。カウンターが無ければショップで調整して貰いましょう。SSBモードの場合は、マイクを握って直接声を出して、相手局と交信するので、パソコン上のソフトでの交信とは一味違った醍醐味が有ります。パソコンで交信するのも、他人それぞれですが、データに使われて交信、って言えば、叱られるかも知れませんが、アナログのシンプレックスが、無線の基本の様な気がして成りません。不平もお有りでしょうが、私はアナログが好きです。(本当はパソコンが苦手です)

この、「チョコット知っとこ」コーナーも、これで最後です。Ver-1から、始め長い間の御愛読に感謝します。お読みに成って頂き、お判りかと思いますが、430MHzを主体として書いて来ましたが、特に430MHzに拘って居る訳では有りません。内容に依っては、他のバンド帯でも同じ事が言える部分も有り、工学的な基本はどの周波数でも同じです。参考に成ったか、成らなかったかは、読まれた方が判断下さい。長期に渡り、お付き合い頂き有難うございました。又の機会にでも……感謝、感謝。